

平成 19 年度 科学研究費補助金 特定領域研究 特定領域計画書作成・記入要領

- 1 特定領域計画書は、科学研究費補助金公募要領及びこの作成・記入要領に留意の上、作成してください。
- 2 特定領域研究では、研究の内容、目標等に応じ効果的な研究体制が取り得るよう研究期間、研究経費に幅を設けています。

これは、例えば、分野によっては、単年度当たりの研究経費は少額であるが比較的長期にわたり研究を継続することを適当とするもの、あるいはこれと異なり、短期に比較的多額の研究経費を要するもの等があるので、応募しようとする研究領域の性格等に合致した研究計画を立案することができるよう配慮したものであります。

したがって、応募に当たっては、応募しようとする特定領域の範囲、目標等を適正に設定し、研究経費、研究期間等が過大なものにならないよう特に留意してください。

(特定領域計画書の体裁等)

- 1 特定領域計画書は、次頁の「記載事項」を参考として所要事項をできるだけ簡潔にまとめ、1冊に製本してください。体裁はA4判（縦長）横書き両面印刷としてください。
- 2 表紙には、領域代表者が独立行政法人日本学術振興会「電子申請システム」（以下、「電子申請システム」という。）にアクセスして「応募情報」を入力し、作成した特定領域計画書表紙を印刷したものを用いてください。
なお、原本には、表紙の右上に「正」と記入してください。

※ 作成上の手順及び留意点

- ① 特定領域計画書の前半部分（「応募情報ファイル」（Web入力項目））を、「電子申請システム」にアクセスして入力し作成してください。
- ② 特定領域計画書の後半部分（様式S-1-3）の1～9までの記載事項については、「応募内容ファイル」であり、領域代表者が、文部科学省の科学研究費補助金ホームページから取得したWordファイル様式に領域の計画についてポイントを絞り20頁（10枚）以内で記述してください。
- ③ 各計画研究の研究計画調書（「応募情報ファイル」（Web入力項目）＋様式S-1-4「応募内容ファイル」（添付ファイル項目））は、各計画研究（総括班、支援班及び調整班を含む。）の研究代表者が、「電子申請システム」にアクセスして、研究計画調書（「応募情報ファイル」（Web入力項目）を入力するとともに、様式S-1-4「応募内容ファイル」（添付ファイル項目）を添付）を作成し、各計画研究の研究代表者の所属研究機関へ提出（送信）します。所属研究機関では、「電子申請システム」にアクセスして確認後、領域代表者へ提出（送信）します。
領域代表者は、提出（送信）された計画研究の研究計画調書を、特定領域計画書の研究組織に記載された順番に整理をしてください。
- ④ 特定領域計画書表紙、特定領域計画書の前半部分（「応募情報ファイル」（Web入力項目））、特定領域計画書の後半部分（様式S-1-3）の1～9までの記載事項及び各計画研究の研究計画調書を取りまとめ冊子体にしてください。

I 応募情報（Web 入力項目）

以下の項目については、「応募情報（Web 入力項目）」であり、領域代表者が所属研究機関から付与された ID・パスワードで「電子申請システム」にアクセスして直接入力を行ってください。

応募情報（Web 入力項目）は、特定領域計画書の前半部分を構成することになります。

応募情報（Web 入力項目）に係る作成・入力要領は、「平成 19 年度 科学研究費補助金 特定領域研究 応募情報（Web 入力項目）作成・入力要領（特定領域計画書）」を参照願います。

（Web 入力項目）

1. 審査希望部門（系等）
2. 仮領域番号
3. 応募領域名
4. 領域代表者氏名
5. 領域代表者所属研究機関・部局・職
6. 応募領域の研究概要
7. 準備研究・事前調査の状況
8. 過去の特定領域の応募状況
9. 研究領域最終年度前年度の応募
10. 関連分野（細目）
 11. 研究の必要性
 12. 研究組織
 13. 研究経費
 14. 領域代表者住所、連絡先
 15. 事務担当者
 16. 関連研究分野研究者
 17. その他審査の際の参考資料

II 応募内容ファイル

以下の項目は、「応募内容ファイル」の内容であり、領域代表者が文部科学省の科学研究費補助金ホームページから様式を取得し記入したものを、応募情報（Web 入力項目）と各計画研究の研究計画調書と併せて製本するためのものです。

「記載事項」

1 応募領域の研究の必要性

応募領域の研究を遂行するにあたって、他の研究種目ではなく、特定領域研究による研究でなければ推進できない理由（領域設定の目的、意義、必要性及び緊急性等）。また、研究領域最終年度前年度の応募を行う場合は、その理由について具体的かつ明確に記述してください。

（なお、応募領域が、公募要領（17頁）II 2 (2) ① (イ) 対象に示された a～e のうち、どの点に該当し特徴的であるかを明確にするとともに、応募領域に関連するこれまでの特定領域についても言及することが望ましい。）

2 応募領域の国内・国外の研究状況

応募領域及び関連する領域の国内・国外の研究動向、過去における関連領域の特定領域研究、科学研究費補助金以外の研究費において進められている関連研究等について記述してください。

なお、応募領域の研究を進めるにあたって、これらとの連携を視野に入れている場合、そのこ

とについても言及してください。

3 応募までの準備研究・調査の状況等

基盤研究（企画調査）、学会活動、その他の方法による応募に至るまでの準備研究・事前調査の状況について記述してください。また、今までに同様のテーマで特定領域研究に応募したことがある場合は、その応募状況とその後の主な変更点について記述してください（過去に審査を受けた領域については、その審査のコメントを記述し、それに対する対応を含む。）。

4 研究領域最終年度前年度の応募の概要

平成19年度が、研究領域の研究期間の最終年度に当たる研究領域の計画研究の研究代表者が、当該研究領域の推進を踏まえ、研究領域を再構築することを希望して応募する場合のみ記述してください。

平成19年度が最終年度に当たる研究領域の当初研究計画（何をどこまで明らかにするために、何を素材として、どのような方法で研究を進めようとしたのか等）、この研究によって得られた新たな知見等の研究成果及び研究領域最終年度前年度の応募をする理由について具体的かつ明確に記述してください。

なお、平成19年度が最終年度に当たる研究領域の中間評価結果を確認した上で簡潔に記述し、今回の応募研究領域にどのように反映させるのか等の関連を明確に記述してください。

5 領域を推進するに当たっての基本的考え方

領域を推進するに当たっての総括班の役割、応募領域の研究項目、研究組織、研究期間等について基本となる考え方を記述した上で、概念図を示してください。その際、応募領域内の各研究項目、各研究課題をどのように有機的に結びつけ、領域として何を目指すのか明らかにしてください。

（概念図の記載要領）

- ・ 概念図に用いる枚数は1枚としてください
- ・ 領域の概念図で明示する内容
総括班の役割、研究項目、計画研究、研究組織、研究期間 等
- ・ 領域として何を目指すのか明らかにしてください
- ・ 応募領域内の各研究項目、各研究課題の関係を明らかにしてください

6 領域の内容

応募領域における研究の具体的な内容及び研究項目の研究内容、研究組織（予定される研究者数、研究代表者及び研究分担者の氏名・所属・職・専門分野・研究役割分担、評価者（公募要領（17頁）Ⅱ2(2)①(オ)の表中総括班③参照）に該当する研究者がある場合は、当該研究者の氏名・所属・職）について下記のような表を用いて分かりやすく記述してください。その際、総括班、支援班、調整班、及び各研究課題の組織、役割等を明確にしてください。

なお、総括班、支援班、調整班及び計画研究については、平成19年夏頃から研究等を進めることになるため、平成19年度における研究計画、方法についても記述してください。

計画研究を設ける場合は、計画研究を設けなければ当該領域の研究が推進できない理由を記述してください。また、各計画研究の研究代表者を記載し、予め当該領域に参加する旨の承諾を得てください。なお、過大な研究組織とすることや同一の研究者が複数の研究計画に参加することは避けてください。

公募研究を設ける場合は、公募研究を設けなければ当該領域の研究が推進できない理由を記述してください。また、何件程度の研究課題を必要とし、それぞれの公募研究が当該応募領域においてどのような位置付けにあり、領域全体としてどのような研究を期待するのかについて記述してください。その際、1研究課題当たりどの程度の研究経費が必要かを示してください。

なお、領域内における研究評価、領域全体の成果の発信、広報等は、総括班で行ってください。

また、総括班は実際の研究を行わないことから、実際の研究を行うための設備備品費、消耗品費は総括班に計上せず、領域の研究支援活動（領域内で共用するための設備・装置の購入・開発・運用、実験試料・資材の提供等）を行う場合には、支援班を設けてください。

なお、支援班に領域内で共有するための設備・装置の購入等を行うにもかかわらず、各計画研究においても設備・装置の購入等を行う場合には、その理由・関係等を記述してください。

(記載例)

総括班

(総括班の活動内容等を記載)

代表者氏名 (所属・職名)	総括班における役割
(研究代表者) 〇〇 〇〇 ()	領域代表者 (領域の総括)
(研究分担者) 〇〇 〇〇 () 〇〇 〇〇 ()	領域の研究方針の策定、各研究項目の企画調整担当 領域の広報担当
(研究協力者) 〇〇 〇〇 () 〇〇 〇〇 ()	評価者 (領域の評価) 評価者 (領域の評価)

研究項目A01 〇〇の研究

(研究項目A01の研究内容・組織等を記載)

ア 計画研究課題名 (研究代表者氏名・所属・職名) (研究分担者氏名・所属・職名) ※ 計画研究の概要について記述
イ 計画研究課題名 (研究代表者氏名・所属・職名) (研究分担者氏名・所属・職名) ※ 計画研究の概要について記述
公募研究 (〇件程度) ※ 研究項目内における公募研究の位置付け

研究項目A02 ○○の研究

(研究項目A02の研究内容・組織等を記載)

ア 計画研究課題名 (研究代表者氏名・所属・職名)
(研究分担者氏名・所属・職名)

※ 計画研究の概要について記述

イ 計画研究課題名 (研究代表者氏名・所属・職名)
(研究分担者氏名・所属・職名)

※ 計画研究の概要について記述

公募研究 (○件程度)

※ 研究項目内における公募研究の位置付け

7 研究期間及び研究経費

特定領域計画書の研究経費欄に示した内容について、当該応募研究領域全体としてそれだけの研究期間を必要とする理由を応募研究経費と関連付けて記述してください。

また、領域全体の応募期間と連動しない計画研究が含まれる場合はその必要性についても併せて記述してください。

なお、1年度目は計画研究(総括班、支援班及び調整班を含む。)が研究等を開始することになります(ただし、研究領域最終年度前年度の応募の場合は、1年度目は総括班のみが、2年度目からはその他の計画研究・公募研究も研究等を開始することになります。)

8 計画研究における費目別内訳

計画研究で必要とする設備備品費、消耗品費等各費目について、積算の概要を計画年度別に簡潔に記入してください(例えば、設備備品費については、装置名、数量、予定価格、設置予定機関等。)

(単位:千円)

費目	年度	19	20		合計
	設備備品費				
消耗品費					
旅費	国内				
	海外				
謝金等					
その他					
合計					

9 その他

- (1) 研究内容の理解に役立つ図表・解説、準備状況をまとめた骨子
- (2) 領域代表者、計画研究の研究代表者の最近の主要研究業績
- (3) 領域代表者及び計画研究の研究代表者の既設又は終了した特定領域への参加状況
研究領域最終年度前年度の応募を行う場合は本応募領域との関連を簡潔に記述してください。
- (4) その他、審査の上で参考になるとと思われる事項

10 各計画研究の研究計画調書

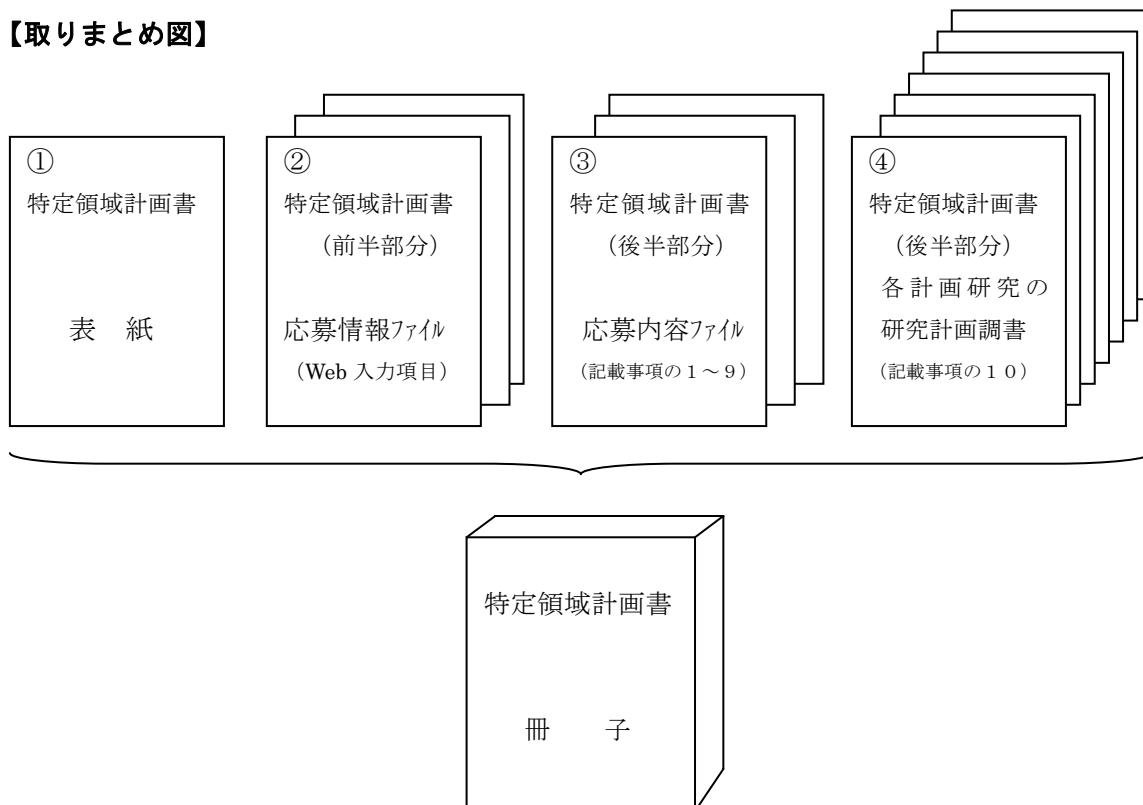
作成上の手順及び留意点③記載のとおり、計画研究（総括班、支援班及び調整班を含む。）の研究代表者毎に、特定領域計画書の研究組織に記載された順番に整理をしてください。

Ⅲ 取りまとめ方法

特定領域計画書の取りまとめ方法については、以下の手順により行う。【取りまとめ図参照】

- ① 領域代表者が「電子申請システム」にアクセスして（「応募情報ファイル」（Web 入力項目））を入力し作成してください。
- ② 領域代表者が特定領域計画書表紙を出力するとともに特定領域計画書の前半部分（「応募情報ファイル」（Web 入力項目））を両面で印刷してください。
- ③ 領域代表者が特定領域計画書の後半部分（様式S-1-3）の1～9までの記載事項を、文部科学省の科学研究費補助金ホームページから取得した Word ファイル様式に記述し両面で印刷してください。
- ④ 領域代表者が各計画研究（総括班、支援班及び調整班を含む。）の研究代表者が「電子申請システム」にアクセスして入力し作成した研究計画調書を、特定領域計画書の研究組織に記載された順番に整理をしてください。
- ⑤ 上記①～④の順番で取りまとめ冊子体にしてください。

【取りまとめ図】



15分類表

人文・社会科学系

1. 人文科学系	哲学 実験系心理学 教育・社会系心理学 教育学 文化人類学 史学	文学 科学技術史 人文地理学 文化財科学 科学教育・教科教育学 談話(ディスコース)
2. 社会科学系	社会学 法学 経済学 医療社会学 国際取引	少年非行 ジェンダー 非営利 共同組織

理工系

3. 数物科学系	数学 固体物理 I 固体物理 II 物性一般	物理学一般 統計科学 複雑系の科学
4. 環境・自然災害・エネルギー科学系	自然災害科学 プラズマ理工学	エネルギー学 環境科学
5. 地球・宇宙科学系	天文学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	宇宙化学 水循環システム
6. 物質・材料科学系	化学 応用物理学・工学基礎 電子・電気材料工学 材料工学	プロセス工学 工学化学 複合化集積システム ポストゲノムのナノサイエンス
7. 情報・電気・電子工学系	電力工学・電気機器工学 電子デバイス・機器工学 情報通信工学 システム工学 計測工学	制御工学 情報科学 感性工学 電磁場環境 複合化集積システム
8. 構造・機能科学系	機械工学 土木工学 建築学 総合工学	農業工学 社会システム工学 医用生体工学・生体材料科学

生物系

9. がん・エイズ等難治疾患関係	人体病理学 実験病理学 免疫学 小児科学 放射線科学 血液内科学	外科学一般 消化器外科学 小児外科学 泌尿器科学 産婦人科学
10. 成人病・感染症・その他疾患関係	生理 寄生虫学 細菌学 ウイルス学 社会医学 免疫病・感染症内科学・内科学一般 消化器内科学 呼吸器内科学 循環器内科学 皮膚科学 腎臓内科学 内分泌学 代謝学 胸部外科学	整形外科学 麻酔・蘇生学 耳鼻咽喉科学 眼科学 形成外科学 人類遺伝学 病体検査学 看護学 免疫の制御機構 リハビリテーション科学 心血管生物学 胎児・新生児医学 泌尿器科学 産婦人科学
11. 歯科疾患関係	歯科	
12. 脳・神経科学系	神経内科学 精神神経科学 脳神経外科学	神経科学 胎児・新生児医学
13. 薬学系	薬学 応用薬理学・医療系薬学	
14. 生物科学系	生物学 人類学 農学 農芸化学 林学 水産学 農業経済学 畜産学・獣医学 境界農学 生物化学	基礎生物化学 実験動物学 老化(加齢) 自然史科学 動物臨床医学 内分泌かく乱物質 生物資源の変換と展開 生物多様性 生物死(アポトーシス)

その他

15. その他	体育学 自然地理学	家政学 広領域
---------	--------------	------------